

第二章 東洋西後思慮時期（日清三〇、日露三〇、七）に於ける統帥

第一節 本期間に於ける全般情勢

一、海洋方面戦局

四月一日 米軍沖繩本島に上陸開始

五月下旬 沖繩本島に於ける我軍の組織的抵抗遂に終了するに至り

呂宋島も亦大部分敵手に歸するに至れり

二、緬甸方面戦局

緬甸方面軍のイラワジ河畔會戦失敗し五月上旬ラングーン陥落するに及び方面軍主力を南緬要域に集結するの止むなきに至れり

三、北方情勢

四月五日ソ聯は日ソ中立條約の廢棄を通告すると共に兵力の東送を急増し五月獨逸の降伏以降極東ソ軍の對日作戰準備愈々露骨となりソ聯の對日參戰を豫想せらるるに至れり

四、歐米情勢

四月十二日 米大統領ルーズベルト死亡しトルーマン後任に就任

二五七

五月 七日 獨逸無條件降伏

七月十六日 米英ソ三首腦ポツダム會談開始

七月二十六日 米英支三國ポツダム共同宣言（對日無條件降伏勸告）

發表

英首相チャーチル失脚アトリー後繼内閣組織

五國內情勢

1. 四月五日小磯内閣總辭職七日鈴木貫太郎樞府議長後繼内閣を組織

し陸相には阿南惟幾大將就任せり

2. 四月本土第一次兵備の實施に伴ひ統帥機構を強化整備し第一總軍

第二總軍及航空總軍の戰闘序列を令し本格的本土作戰準備を發足

せり

3. 五月に入り主要都市次で中小都市に對する米空軍の襲撃攻撃激

化せり

北方情勢の急迫に伴ひ大本營は五月下旬西南支那方面戦面の收縮
中北支及南滿、朝鮮の對米蘇戰備強化に關し支那派遣軍、關東軍
及朝鮮軍に對し命令せり

第二節 本期間に於ける支那作戰經過の概要

一、老河口作戰

第十二軍は三月三十一日南陽を占領し四月八日老河口を攻略せし
が敵第一戰區軍は西峽口附近の^{110D}正面に對し四月中旬より六月上
旬に亘り激烈なる反攻を實施せり軍は克く之を撃退し六月十八日
より約一週間局部攻勢を指導したる後戰勢を概ね安定せしむるに
至れり

2 第三十四軍の策應部隊は第十二軍の老河口占領と共に反轉を開始
せり

三、芷江作戰

第二十軍 (47D 116D 及 34D 68D 各一部基幹但し 47D) 主力は未到着一は四月十五